

<報道発表資料>

(経済同時)

令和 8 年 1 月 13 日

京都国際マンガミュージアム広報担当

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

京都国際マンガミュージアム 収蔵品展 「MM-DiG」 第一弾

マンガの歴史を遺した男

ーマンガ・諷刺画史研究家 清水勲の仕事ー
の開催

京都国際マンガミュージアムでは、当館のマンガ資料の中核となる資料を収集した、マンガ研究家 清水勲(しみず・いさお)氏の業績を紹介する展覧会を開催します。

【開催概要】

- 日 時 令和 8 年 1 月 31 日 (土) ～6 月 9 日 (火)
午前 10 時～午後 5 時(最終入館は午後 4 時 30 分)
※休館日：毎週水曜日 (祝日の場合翌日休館、4 月 29 日、5 月 6 日を除く)、
2 月 16 日 (月) ～20 日 (金)
- 会 場 京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー 4 (小展示室)
(〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上る)
- 展示内容

マンガ・諷刺画史研究者 清水勲氏は、コレクターとして江戸期から現代までの膨大なマンガ資料を集め、数多くのマンガ関係の著作を執筆、マンガの歴史や魅力を多くの人たちに紹介した、まさに「マンガの歴史」を紡ぎ、遺(のこ)した人物です。

その膨大な資料群は京都国際マンガミュージアムに寄贈され、当館のコレクションの中核となっています。本展ではミュージアム収蔵の資料と共に、没後にご家族より追加寄贈された資料を用いて、その業績を顕彰します。

展覧会では「コレクター」、「リサーチャー」、「アーキビスト」の 3 つの視点から清水氏の仕事を紹介します。また、資料整理で発見された初公開となる未発表原稿や、若いころに寄稿していた同人誌なども展示します。

<展示作品>

清水勲氏の全著作。研究ノート、未発表原稿、資料の収集方法が分かる資料など約 150 点の資料を展示。

- 料 金 無料 (ただし、ミュージアム入館料
〔大人 1,200 円、中高生 400 円、小学生 200 円〕は別途必要)
- 主 催 京都国際マンガミュージアム

【関連イベント】

● トークイベント「清水勲の遺したものたち」

内 容：清水氏の最晩年に共に仕事をされていた猪俣紀子氏をお迎えし、清水氏の仕事と、残された資料の可能性について語ります。また、2 人の共著として企画され、未完の仕事となった「日本ナンセンス漫画史」についても紹介します。

日 時：令和 8 年 3 月 1 日（日）14:00～16:00

会 場：京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー6

定 員：30 名（先着順）

出 演：猪俣紀子（茨木大学准教授）

新美琢真（京都国際マンガミュージアム学芸室員）

参加方法：事前申込不要

※当日の午前 10 時より館内にてイベント参加整理券を配布します。

料 金：無料（ただし、マンガミュージアム入館料

〔大人 1,200 円、中高生 400 円、小学生 200 円〕は別途必要）

< 参考 >

● 清水勲(しみず・いさお)

マンガ・諷刺画史研究家。

1939 年東京生まれ。立教大学理学部数学科卒業後、三省堂、日本リーダーズ・ダイジェスト社に勤務。1984 年より執筆・研究活動に専念。自身で収集した膨大なマンガ資料のコレクションを基に 100 冊を超えるマンガ関係の著作を執筆した。

1970 年代よりマンガの展覧会にも関わるようになり、川崎市市民ミュージアムの設立時には専門研究員として博物館施設におけるマンガ資料のアーカイブ理念と収集指針を構築した。京都国際マンガミュージアムの設立にも尽力。開館後も研究顧問として関わり、多数のイベントや展覧会に協力している。2021 年逝去。

● MM-DiG とは

マンガミュージアム(MM)には、本や雑誌や原画など約 30 万点に及ぶ膨大なコレクションが収蔵されています。歴史的に重要な資料から、何だか良くわからない物体まで、マンガに関するありとあらゆる興味深いモノたちが大量にあります。みなさまにお見せ出来ているのは企画展などで出品する、ほんの一部でしかありません。

MM-DiG は、そんな MM に眠る知られざる収蔵品たちを Dig！（掘り起こ）して、様々な切り口でご紹介していく小展示シリーズです。今回が第一弾の企画となり、今後も不定期に展開していくことを予定しています。

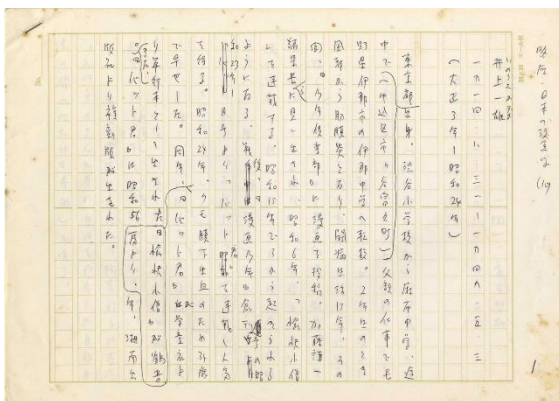
< お問合せ先 >

京都国際マンガミュージアム

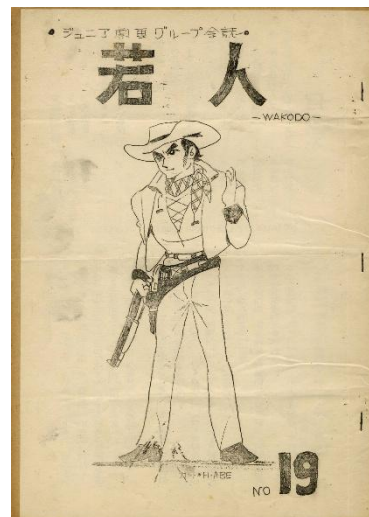
電話：075-254-7414

< 提供可能画像 >

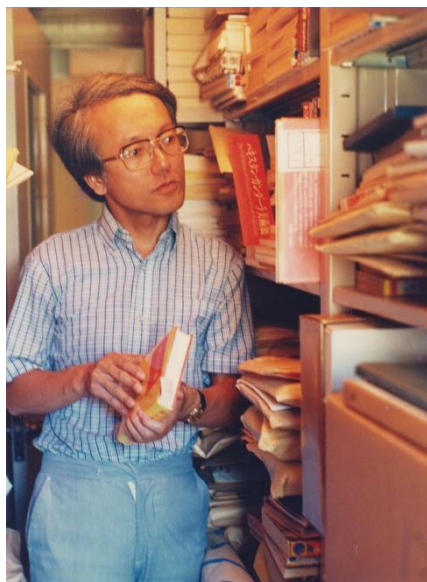
本展紹介にのみ使用可能な広報画像です。キャプションやクレジットの記載と共にご使用ください。使用希望の際は、お申し出いただきましたらメールでお送りいたします。



直筆原稿



若いころに参加していた同人誌「若人 - No.19」(ジュニア劇画グループ、1963)



書斎にて
(写真提供：清水己明)



自宅に置かれた大量のコレクション
(写真提供：清水己明)